

2011年3月期 決算説明資料

1 連結業績の概要

- 1) 連結業績概要 (前期比) …P. 3
- 2) 売上高の変動要因 …P. 4
- 3) 営業利益の変動要因 …P. 5

2 連結業績の詳細

- 1) セグメント別売上高・営業利益 (前期比) …P. 7
- 2) 四半期毎のセグメント別売上高 …P. 13
- 3) セグメント別売上高・営業利益 (計画比) …P. 14
- 4) 地域別売上高 …P. 15
- 5) 設備投資他 …P. 16
- 6) 損益計算書・包括利益計算書 …P. 17

3 2011年度 セグメント別事業計画

- 1) 海外市場 …P. 19
- 2) 金融市場 …P. 20
- 3) 流通・交通市場 …P. 21
- 4) 遊技市場 …P. 22

4 2012年3月期 業績予想

- 1) 2012年3月期 業績予想 …P. 24
- 2) セグメント別売上高・営業利益 (前期比) …P. 25
- 3) 半期毎のセグメント別売上高・営業利益 …P. 26

5 その他の情報

- 1) 配当予想について …P. 28

当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しの変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、投資判断を決定する場合には、本資料の将来の見通しのみには依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。

2011年3月期 1 連結業績の概要

- 1) 連結業績概要 前年同期比 ……P. 3
- 2) 売上高の変動要因 ……P. 4
- 3) 営業利益の変動要因 ……P. 5

1 連結業績の概要		連結業績概要		前期比
売上高	遊技市場は低調であったものの、金融市場における新製品等の販売が好調であったため、前期に比べ増加。			
利益	開発効率や生産性の向上、海外生産・海外調達等のコストダウン施策の推進により、営業利益・経常利益・当期純利益ともに前期に比べ増加。			
(百万円)	2010年3月期	2011年3月期	前期比	
売上高	135,105	138,964	+2.9%	
うち 保守売上高	31,682 (23.4%)	32,092 (23.1%)	+1.3%	
営業利益	7,685 (5.7%)	10,323 (7.4%)	+34.3%	
経常利益	9,011 (6.7%)	11,028 (7.9%)	+22.4%	
当期純利益	5,108 (3.8%)	6,229 (4.5%)	+21.9%	

3

2011年3月期の「連結業績」について

当期は前期と比べ増収増益。

【売上高】

前期比プラス2.9%の1,389億6,400万円

遊技市場は低調であったが、金融市場の新製品等の販売が好調に推移。

【利益】

・開発効率や生産性の向上

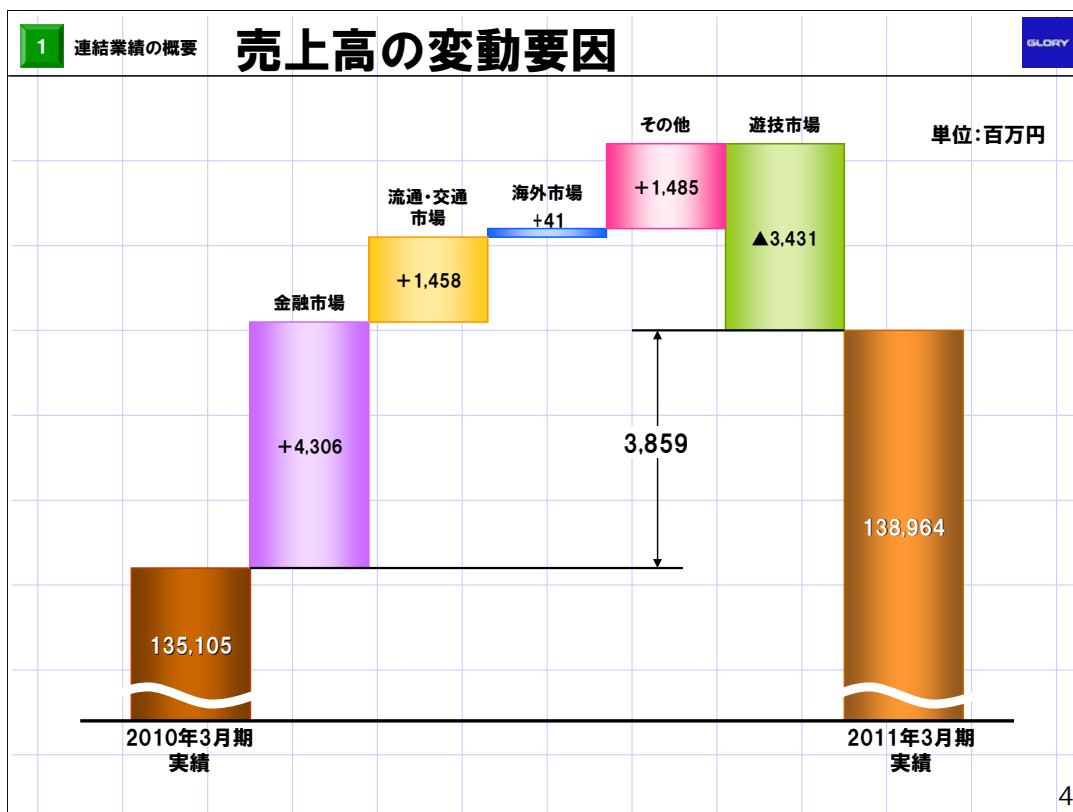
・海外生産・海外調達等のコストダウン施策を推進。

・営業利益 前期比プラス34.3%の103億2,300万円

・経常利益 前期比プラス22.4%の110億2,800万円

・当期純利益 前期比プラス21.9%の62億2,900万円

東日本大震災による生産・販売への影響は軽微。



売上高の「変動要因」について

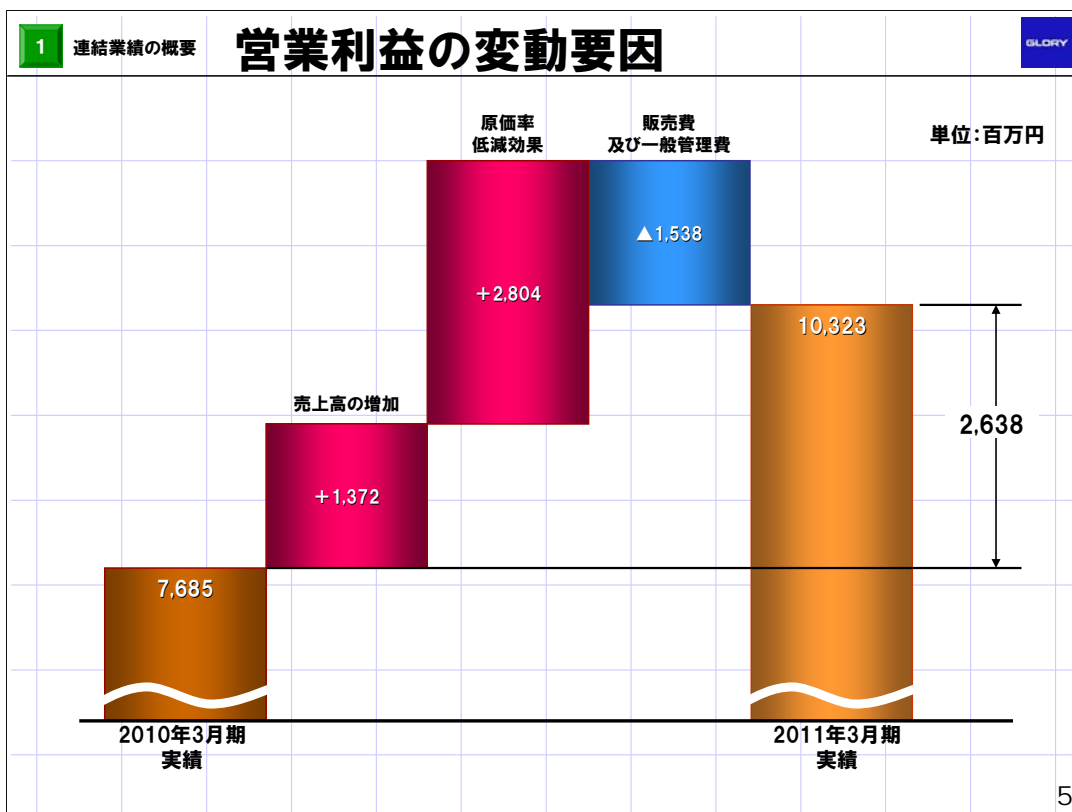
当期は前期に比べ38億5,900万円の増収。

[売上高が増加したセグメント]

- ・金融市場 43億600万円増加
- ・流通・交通市場 14億5,800万円増加
- ・海外市場 4,100万円増加
- ・その他 14億8,500万円増加

[売上高が減少したセグメント]

- ・遊技市場 34億3,100万円減少



「営業利益の変動要因」について

当期は前期と比べ62億3,800万円の増益。

[主な増加要因]

- ・売上高増加 13億7,200万円
- ・原価率低減の効果 28億400万円
- ・合計で41億7,600万円増加

[主な減少要因]

販管費 15億3,800万円増加

2011年3月期 2 連結業績の詳細

- 1)セグメント別売上高・営業利益(前期比) …P. 7
- 2)四半期毎のセグメント別売上高 …P. 13
- 3)セグメント別売上高・営業利益(計画比) …P. 14
- 4)地域別売上高 …P. 15
- 5)設備投資他 …P. 16
- 6)損益計算書・包括利益計算書 …P. 17

(単位:百万円)

セグメント	売上高			営業利益		
	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前期比	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前期比
■ 金融市場	42,630	46,936	+4,306 (+10.1%)	2,690	5,586	+2,896 (+107.7%)
■ 流通・交通 市場	25,208	26,666	+1,458 (+5.8%)	1,933	2,292	+359 (+18.6%)
■ 遊技市場	27,592	24,161	▲3,431 (▲12.4%)	2,705	824	▲1,881 (▲69.5%)
■ 海外市場	28,712	28,753	+41 (+0.1%)	1,299	1,349	+50 (+3.8%)
■ その他	10,961	12,446	+1,485 (+13.5%)	▲943	269	+1,212 (+128.5%)
〔自動販売機 市場〕	(5,089)	(6,713)	(+1,624) (+31.9%)	(▲124)	(▲350)	(▲226) (▲182.3%)
合 計	135,105	138,964	+3,859 (+2.9%)	7,685	10,323	+2,638 (+34.3%)

「セグメント別売上高と営業利益(前期比)」について

[セグメント別売上高]

遊技市場を除く全てのセグメントで増加。

[セグメント別営業利益]

遊技市場を除く全てのセグメントで増加。

● 主要製品の販売が堅調

オープン出納システムは、中小規模店舗向けコンパクトタイプの販売が拡大。
また、窓口用入出金システム(OEM)の更新需要による販売も拡大し、当市場の売上高は前期を上回る。

主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前期比
売上高	42,630	46,936	+4,306 (+10.1%)
構成比率	31.6%	33.8%	+2.2%
営業利益	2,690	5,586	+2,896 (+107.7%)
構成比率	35.0%	54.1%	+19.1%
営業利益率	6.3%	11.9%	+5.6%

8

「金融市場」について

[売上高]

前期比プラス10.1%の469億3,600万円

[営業利益]

前期比プラス107.7%の55億8,600万円

主要製品のオープン出納システムの販売は、
中小規模店舗向けのコンパクトタイプの販売が前期比プラス46%と
好調に推移。
OEM商品である窓口用入出金システムの販売も更新需要を確実にとらえ
前期比プラス52%と好調に推移。

●レジつり銭機の販売が堅調

レジつり銭機の販売が堅調であったため、
OEM商品である店舗入金機の販売は減少したが
当市場の売上高は前期を上回る。

(単位:百万円)

主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示

	2010年3月期	2011年3月期	前期比
売上高	25,208	26,666	+1,458 (+5.8%)
構成比率	18.7%	19.2%	+0.5%
営業利益	1,933	2,292	+359 (+18.6%)
構成比率	25.2%	22.2%	▲3.0%
営業利益率	7.7%	8.6%	+0.9%

9

「流通・交通市場」について

[売上高]

前期比プラス5.8%の266億6,600万円

[営業利益]

前期比プラス18.6%の22億9,200万円

スーパー・専門店で設備投資や新規出店の抑制傾向が続くなど、市場環境は厳しい状況。

主要製品であるレジつり銭機が前期比プラス12.5%、小売店向けの小型入金機は前期比プラス1.6%と順調に推移。

●カードシステムの販売が低調

新製品の景品保管機の販売は堅調であったものの、カードシステム等に対する設備投資の抑制傾向に加え、市場競争激化の影響もあり、当市場の売上高は前期を下回る。

主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前期比
売上高	27,592	24,161	▲3,431 (▲12.4%)
構成比率	20.4%	17.4%	▲3.0%
営業利益	2,705	824	▲1,881 (▲69.5%)
構成比率	35.2%	8.0%	▲27.2%
営業利益率	9.8%	3.4%	▲6.4%

10

「遊技市場」について

[売上高]

前期比マイナス12.4%の241億6,100万円

[営業利益]

前期比マイナス69.5%の8億2,400万円

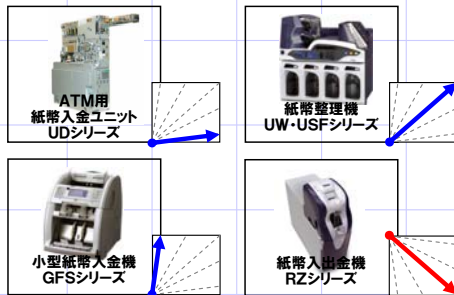
昨年10月に発売した新製品の景品保管機の販売は好調。
カードシステム等に対する設備投資の抑制傾向に加え、市場競争が激化し
販売量は減少。

●紙幣整理機や新製品の販売が好調

(単位:百万円)

アジアでの中国、インドにおける紙幣整理機の販売拡大に加え、イタリアの販売代理店の買収が業績に寄与したが、欧米での需要回復は遅く、当市場の売上高は前期並みとなる。

主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示

	2010年3月期	2011年3月期	前期比
売上高	28,712	28,753	+41 (+0.1%)
構成比率	21.3%	20.7%	▲0.6%
営業利益	1,299	1,349	+50 (+3.8%)
構成比率	16.9%	13.1%	▲3.8%
営業利益率	4.5%	4.7%	+0.2%

11

「海外市場」について

[売上高]

前期比プラス0.1%の287億5,300万円

[営業利益]

前期比プラス3.8%の13億4,900万円

アジア)

中国、インドにおける紙幣整理機の販売が好調に推移し、同製品の売上高は前期比プラス69.1%と大きく伸張。

欧州)

イタリアの販売代理店の買収が業績に寄与したものの、円高の影響も加わり、市場環境は厳しい状況。

米州)

OEM商品であるATM用紙幣入金ユニットの販売が減少。

●主要製品の販売が好調

(単位:百万円)

OEM商品である公営競馬場向け当選金払出ユニットや券売機の販売が拡大し、当市場の売上高は前期を上回る。

主要製品の状況(前年同期比)



※矢印の傾きは売上高前年同期比の増減状況を表示

	2010年3月期	2011年3月期	前期比
売上高	10,961	12,446	+1,485 (+13.5%)
構成比率	8.1%	9.0%	+0.9%
営業利益	▲943	269	+1,212 (+128.5%)
構成比率	▲12.3%	2.6%	+14.9%
営業利益率	▲8.6%	2.2%	+10.8%

12

「その他」について

[売上高]

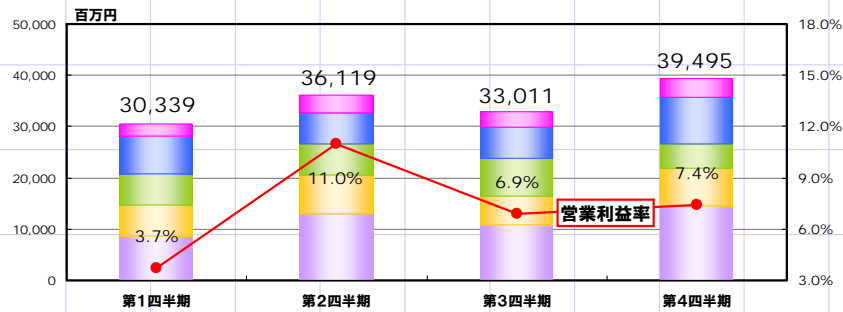
前期比プラス13.5%の124億4,600万円

[営業利益]

前期比プラス128.5%の2億6,900万円

OEM商品の公営競馬場向け当選金払出ユニットや券売機の販売が順調に推移。

四半期毎のセグメント別売上高



2011年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
金融市場	8,634(417)	12,945(1,761)	10,897(1,427)	14,460(1,981)	46,936(5,586)
流通・交通市場	6,005(486)	7,566(694)	5,623(425)	7,471(687)	26,666(2,292)
遊技市場	6,147(102)	6,019(426)	7,272(659)	4,723(▲363)	24,161(824)
海外市場	7,235(393)	6,251(744)	6,121(▲124)	9,146(336)	28,753(1,349)
その他	2,317(▲276)	3,337(360)	3,095(▲95)	3,696(280)	12,446(269)
自動販売機	1,097(▲294)	1,584(35)	2,130(▲82)	1,902(▲9)	6,713(▲350)
合計	30,339(1,123)	36,119(3,985)	33,011(2,293)	39,495(2,922)	138,964(10,323)

※右側の()は営業利益

「四半期毎のセグメント別売上高・営業利益」の推移について

第4四半期の売上高比率は高まったが、
手数料の支払いや販管費の増加等が営業利益を押し下げる。

セグメント	(単位:百万円)					
	売上高			営業利益		
	2011年3月期 計画	2011年3月期 実績	計画比	2011年3月期 計画	2011年3月期 実績	計画比
金融市場	50,000	46,936	▲3,064 (▲6.1%)	4,600	5,586	+986 (+21.4%)
流通・交通 市場	28,000	26,666	▲1,334 (▲4.8%)	2,100	2,292	+192 (+9.1%)
遊技市場	26,000	24,161	▲1,839 (▲7.1%)	1,300	824	▲476 (▲36.6%)
海外市場	29,000	28,753	▲247 (▲0.9%)	1,800	1,349	▲451 (▲25.1%)
その他	12,000	12,446	+446 (+3.7%)	200	269	+69 (+34.5%)
〔自動販売機 市場〕	(6,500)	(6,713)	(+213) (+3.3%)	(▲200)	(▲350)	(▲150) (▲75.0%)
合計	145,000	138,964	▲6,036 (▲4.2%)	10,000	10,323	+323 (+3.2%)

※計画値は2010年11月5日時点

「セグメント別売上高、営業利益(計画比)」について

[セグメント別売上高]

その他を除く全てのセグメントで減少。

[セグメント別営業利益]

金融市場、流通・交通市場、その他が増加。
遊技市場、海外市場が減少。

(単位:百万円)				現地通貨ベース比較		
海外 地域別売上高	2010年3月期	2011年3月期	差異	2010年3月期	2011年3月期	前期比
米州	7,805	5,988	▲1,817	53,317千ドル (93.46円/ドル)	57,282千ドル (83.15円/ドル)	+7.4%
直販	4,983	4,763	▲220	円ベース		▲4.4%
OEM	2,822	1,225	▲1,597			
欧州	15,485	14,710	▲775	69,851千ユーロ (132.51円/ユーロ)	71,407千ユーロ (108.28円/ユーロ)	+2.2%
直販	9,256	7,732	▲1,524	円ベース		▲16.5%
OEM	6,229	6,978	+749			
アジア	5,422	8,054	+2,632	46,437千ドル (93.46円/ドル)	83,596千ドル (83.15円/ドル)	+80.0%
直販	4,340	6,951	+2,611	円ベース		+60.2%
内中国	2,317	3,960	+1,643			
OEM	1,082	1,103	▲21			
合計	28,712	28,753	+41	「直販」を現地通貨ベースで 換算した場合の比較 ・米州・アジア=3月末時点のレート ・欧州=12月末時点のレート		
直販	18,579	19,447	+868			
OEM	10,133	9,306	▲827			

海外「地域別売上高」について

[米州]

需要の回復が遅く、特にOEMは前期に大口の案件があったこともあり、前期比マイナス23.3%。

[欧州]

イタリアの販売代理店シトラーデ社の買収が業績に寄与したものの、市場環境の厳しさに円高の影響も加わり、前期比マイナス5.0%。

[アジア]

中国・インドでの紙幣整理機の販売が牽引し、前期比プラス48.5%。

右側の表)

為替の影響を除いた売上高を比較するため、各地域の直販の売上高を現地通貨ベースで換算し、記載。

設備投資他

(単位:百万円)

	2010年3月期	2011年3月期	前期比	過去5年間の推移												
設備投資額	6,713	6,413	▲300 ▲4.5%	<table border="1"> <tr><th>FY</th><td>FY06</td><td>FY07</td><td>FY08</td><td>FY09</td><td>FY10</td></tr> <tr><th>Value</th><td>6,035</td><td>7,278</td><td>10,637</td><td>6,713</td><td>6,413</td></tr> </table>	FY	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10	Value	6,035	7,278	10,637	6,713	6,413
FY	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10											
Value	6,035	7,278	10,637	6,713	6,413											
減価償却費	8,144	6,717	▲1,427 ▲17.5%	<table border="1"> <tr><th>FY</th><td>FY06</td><td>FY07</td><td>FY08</td><td>FY09</td><td>FY10</td></tr> <tr><th>Value</th><td>6,337</td><td>6,570</td><td>7,821</td><td>8,144</td><td>6,717</td></tr> </table>	FY	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10	Value	6,337	6,570	7,821	8,144	6,717
FY	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10											
Value	6,337	6,570	7,821	8,144	6,717											
研究開発投資額	8,775	8,678	▲97 ▲1.1%	<table border="1"> <tr><th>FY</th><td>FY06</td><td>FY07</td><td>FY08</td><td>FY09</td><td>FY10</td></tr> <tr><th>Value</th><td>9,328</td><td>9,615</td><td>9,204</td><td>8,775</td><td>8,678</td></tr> </table>	FY	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10	Value	9,328	9,615	9,204	8,775	8,678
FY	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10											
Value	9,328	9,615	9,204	8,775	8,678											

16

「設備投資他」について

- ・設備投資額 前期比マイナス4.5%の64億1,300万円
- ・減価償却費 前期比マイナス17.5%の67億1,700万円
- ・研究開発投資額 前期比マイナス1.1%の86億7,800万円

損益計算書・包括利益計算書

(単位:百万円)

(百万円)	2010年3月期	百分比 (%)	2011年3月期	百分比 (%)	増減
売上高	135,105	100.0	138,964	100.0	+3,859
売上原価	87,074	64.4	86,757	62.4	▲317
販管費	40,345	29.9	41,883	30.1	+1,538
営業利益	7,685	5.7	10,323	7.4	+2,638
営業外収益	1,661	1.2	1,318	0.9	▲343
営業外費用	335	0.2	613	0.4	+278
経常利益	9,011	6.7	11,028	7.9	+2,017
特別利益	425	0.3	405	0.3	▲20
特別損失	931	0.7	1,306	0.9	+375
税金等調整前当期純利益	8,505	6.3	10,127	7.3	+1,622
法人税等合計	3,397	2.5	3,852	2.8	+455
当期純利益	5,108	3.8	6,229	4.5	+1,121
少数株主損益調整前 当期純利益	-	-	6,274	4.5	-
その他包括利益合計	-	-	▲924	▲0.7	-
包括利益	-	-	5,350	3.8	-

①売上原価率：コスト削減活動の成果等により2.0%低減。

②営業外損益：為替差損(326百万円)などが発生。(前年同期は営業外収益に保険返戻金(487百万円)を計上)

③特別損失：減損損失(358百万円)、退職給付費用(257百万円)、投資有価証券評価損(240百万円)

「連結損益計算書」について

売上原価は、コストダウン施策の推進などにより原価率は前期比で2.0%改善。
販管費は、前期比で15億3,800万円増加したが、販管費率は前期と同レベルで推移。

営業利益は前期比プラス34.3%の103億2,300万円、
営業利益率は前期比1.7%改善。

営業外損益は、為替差損3億2,600万円などが発生。
経常利益は前期比プラス22.4%の110億2,800万円、
経常利益率は前期比1.2%改善。

特別損益は、減損損失3億5,800万円、退職給付費用2億5,700万円、
有価証券評価損2億4,000万円などを計上。
税前当期純利益は101億2,700万円。
法人税等を差引き、当期純利益は前期比プラス21.9%の62億2,900万円。

包括利益は、少数株主損益調整前当期純利益62億7,400万円に、その他の
包括利益を合わせ53億5,000万円。その内、親会社株主分は53億7600万円、
少数株主分はマイナス2,500万円。

2011年度

3 セグメント別事業計画

- 1) 海外市場 …P. 19
- 2) 金融市場 …P. 20
- 3) 流通・交通市場 …P. 21
- 4) 遊技市場 …P. 22

● 海外市場を地域別に攻略し、海外事業を拡大する

海外事業展開のスピードアップ

海外事業本部を独立編成

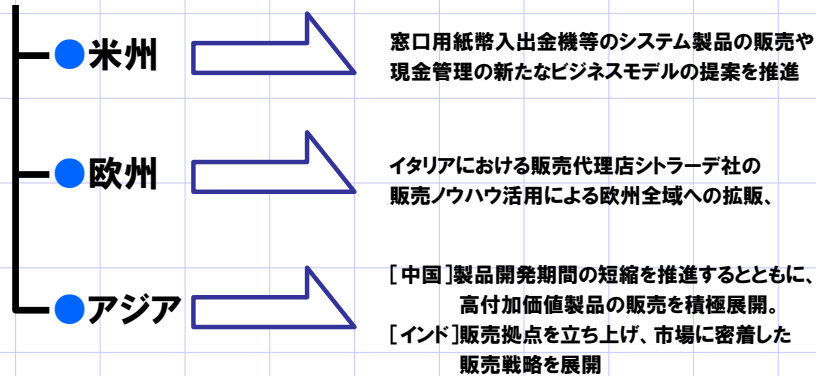
紙幣入出金機
RZシリーズ



地域別組織による地域戦略の強化

本社営業部門を地域別に設置【マーケットイン思想の徹底】

紙幣整理機
USF-50



「海外市場」について

事業展開のスピードアップを図るため海外事業本部を独立編成。
営業部門を3地域ごとに設置し、より明確な販売戦略を推進。

〔米州〕

金融機関向け窓口用紙幣入出金機等のシステム製品の販売や現金管理の新たなビジネスモデルの提案を推進。

〔欧州〕

昨年10月に買収したイタリアのシトラーデ社の販売ノウハウを活用し、欧州全域で拡販。

〔アジア〕

中国)

製品開発期間を短縮とともに、紙幣整理機、システム製品等の高付加価値製品の販売を積極展開。

インド)

販売拠点を立ち上げ、市場に密着した販売戦略を展開。

● 国内市場を深掘りし、事業領域を安定的に拡大する**■ オープン出納システムの販売拡大****1. 更新促進**

導入10年超ユーザーへの更新促進

2. 市場拡大

未導入市場に注力し、シェアを拡大



WAVE 730シリーズ



WAVE C30シリーズ

自動精査現金バス
BWシリーズセキュリティ・ストレージ・システム
BKシリーズ**「金融市場」について****【重点方針】**

・主要製品のオープン出納システムの販売拡大
導入10年を超えるユーザーへの更新需要の促進活動と未導入市場の開拓を積極展開。

また、金融機関の中小規模店舗を対象に、コンパクトタイプのオープン出納システム、自動精査現金バス、重要物管理機を用いた“金庫レス店舗”を新たに提案。

● 国内市場を深掘りし、事業領域を安定的に拡大する

■ レジつり銭機 未導入市場の開拓促進

1. レジつり銭機 未導入市場での実績作り(CVS他)

■ 既存市場での売上拡大

1. 新製品ターゲットユーザーへの提案強化



レジつり銭機
RT/RAD200シリーズ



小型入出金機
DSR200シリーズ

「流通・交通市場」について

[重点方針]

- ・「レジつり銭機の未開拓業種への導入促進」
- ・「既存市場での売上拡大」

レジつり銭機のコンビニエンスストアでの実績作りと飲食店での売上拡大、
また、上期発売予定の小型入出金機による既存市場での売上拡大を図る。

● 国内市場を深掘りし、事業領域を安定的に拡大する

■ **市場環境に対応するための体質強化**

1. 関連会社2社（グローリーナスカ+クリエイションカード）の合併効果の早期発揮
2. 新製品の投入によるラインナップの拡充
3. 海外生産・部材調達によるコスト削減



景品保管機
JKシリーズ



一括玉計数機
JBLシリーズ

「遊技市場」について

[重点方針]

- ・市場環境に対応するための体質強化
 - ・グローリーナスカとクリエイションカードの合併効果の早期発揮
 - ・周辺機器の新製品の投入によるラインナップの拡充
 - ・海外生産・部材調達によるコスト削減
- を推進。

4 2012年3月期 業績予想

- 1)2012年3月期 業績予想 …P. 24
- 2)セグメント別売上高・営業利益(前期比) …P. 25
- 3)半期毎のセグメント別売上高・営業利益…P. 26

売上高 海外市場、流通・交通市場での販売拡大が進み、前期から増加。

利益 販売拡大とコストダウン策の推進により、前期から増加。

(百万円)	2011年3月期 (平成23年3月期)	2012年3月期 (平成24年3月期)	前期比
売上高	138,964	145,000	+4.3%
うち 保守売上高	32,092 (23.1%)	32,000 (22.1%)	▲0.3%
営業利益	10,323 (7.4%)	11,000 (7.6%)	+6.6%
経常利益	11,028 (7.9%)	11,000 (7.6%)	▲0.3%
当期純利益	6,229 (4.5%)	6,500 (4.5%)	+4.4%

「2012年3月期の業績予想」について

売上高は前期比プラス4.3%の1,450億円、
営業利益は前期比プラス6.6%の110億円、
経常利益は前期比マイナス0.3%の110億円、
当期純利益は前期比プラス4.4%の65億円を予想。

セグメント別売上高・営業利益

(百万円)	2011年3月期 (平成23年3月期)		2012年3月期 予想 (平成24年3月期 予想)			
	売上高	営業利益	売上高	前期比	営業利益	前期比
金融市場	46,936	5,586	47,000	+0.1%	4,800	▲14.1%
流通・交通市場	26,666	2,292	30,000	+12.5%	3,500	+52.7%
遊技市場	24,161	824	20,000	▲17.2%	600	▲27.2%
海外市場	28,753	1,349	35,000	+21.7%	1,800	+33.4%
その他	12,446	269	13,000	+4.5%	300	+11.5%
合計	138,964	10,323	145,000	+4.3%	11,000	+6.6%

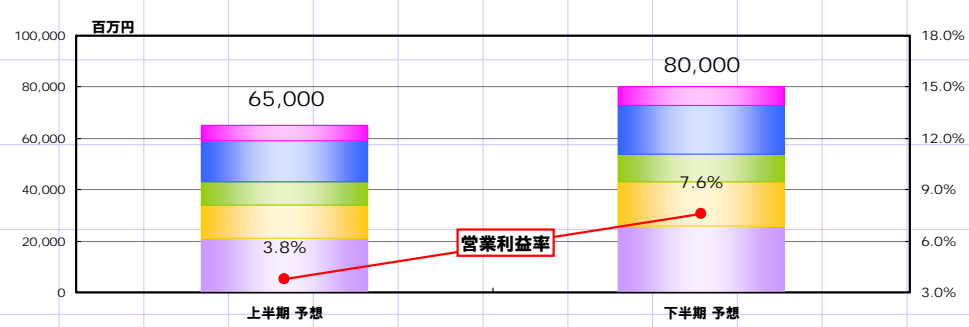
「セグメント別の売上高・営業利益」について

〔売上高〕

金融市場は、前期比プラス0.1%の470億円、
 流通・交通市場は、前期比プラス12.5%の300億円、
 遊技市場は、前期比マイナス17.2%の200億円、
 海外市場は、前期比プラス21.7%の350億円、
 その他は、前期比プラス4.5%の130億円
 を予想。

〔営業利益〕

金融市場は、前期比マイナス14.1%の48億円、
 流通・交通市場は、前期比プラス52.7%の35億円、
 遊技市場は、前期比マイナス27.2%の6億円、
 海外市場は、前期比プラス33.4%の18億円、
 その他は、前期比プラス11.5%の3億円
 を予想。



セグメント	上半期 予想		下半期 予想		年間 予想	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
金融市場	21,000	900	26,000	3,900	47,000	4,800
流通・交通市場	13,000	800	17,000	2,700	30,000	3,500
遊技市場	9,000	100	11,000	500	20,000	600
海外市場	16,000	600	19,000	1,200	35,000	1,800
その他	6,000	100	7,000	200	13,000	300
合計	65,000	2,500	80,000	8,500	145,000	11,000

「半期毎のセグメント別売上高・営業利益」について

[売上高]

上期が45%、下期が55%の比率で推移することを予想。

[営業利益]

上期が23%、下期が77%の比率で推移することを予想。

5 その他の情報

1) 配当予想について …P. 28

●2012年3月期の配当について

利益分配に関する基本方針

将来の事業展開に備えた財務体質の維持・強化を図りつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。具体的には
「連結自己資本配当率1.5%を下限とし、連結配当性向25%以上を目標とした利益分配を行う」
 こととしております。



2012年3月期以降の利益分配について

より一層株主の皆様への還元を図るべく、**配当の下限を連結自己資本配当率1.8%に引き上げ、**
連結配当性向につきましては引き続き25%以上を目標とした利益分配を実施させていただく予定です。

1株当たりの配当金	中間期末	期末	年間 予想
2012年3月期 (2011年5月12日公表)	20円00銭	21円00銭	41円00銭

(ご参考)

2011年3月期 (2011年2月4日公表)	17円00銭	20円00銭	37円00銭 (配当性向40.5%)
---------------------------	--------	--------	-----------------------

※自己株式の取得につきましても、資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するために、適宜実施してまいりたいと考えております。

「配当予想」について

[今期からの利益配分方針]

より一層株主の皆様への還元を図るべく、
 配当の下限を連結自己資本配当率を1.8%に引き上げ、
 連結配当性向につきましては引き続き25%以上を目標とした利益配分を
 実施。

今期の一株当たり配当金は、

中間期末「20円」、期末「21円」、合わせて年間「41円」予定。

[自己株式の取得]

資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するために
 適宜実施。